

# 旧北炭清水沢火力発電所 100年のアート事業

## 「時のあわい」



2025年5月31日(土) ~ 6月14日(土)

会場 | 旧北炭清水沢火力発電所 (夕張市清水沢清栄町国有地 / 東亜建材工業株式会社事業用地)

見学方法 | 約1時間のツアー形式 (完全予約制、1日3回、各回5名程度)

集合場所 | 清水沢コミュニティゲート (夕張市清水沢宮前町39宮コ23)

※集合場所から会場まで車での移動となりますので、必ず自家用車でご来場ください。

料金 | 一般1,000円、学生500円 ※見学対象年齢：小学生以上

お問合せ | 一般社団法人清水沢プロジェクト TEL: 0123-57-7463 MAIL: [info@shimizusawa.com](mailto:info@shimizusawa.com) HP: <https://www.shimizusawa.com/>

主催：一般社団法人清水沢プロジェクト 共催：公益財団法人北海道文化財団 協力：東亜建材工業株式会社 後援：北海道、夕張市、夕張市教育委員会  
助成：公益財団法人野村財団、公益財団法人朝日新聞文化財団 **NOMURA 野村財団**



HOKKAIDO  
ARTS FOUNDATION  
公益財団法人 北海道文化財団





## 〔鑑賞ツアースケジュール〕

1日3回、所要時間 約1時間

出発時間：①10:00 ②12:00 ③14:00

定員：各回5名程度

集合場所：清水沢コミュニティゲート

(〒068-0534夕張市清水沢宮前町39宮コ23)

1. 予約の際に、希望日時・参加人数をご連絡ください。
2. 見学には自家用車が必要です。
3. 稼働中の工場用地のため、作品鑑賞は完全予約制です。
4. 危険が伴うため、未就学児の方は入場できません。

## 〔申込方法〕(5月12日予約開始)

清水沢プロジェクトホームページよりご予約ください

<https://www.shimizusawa.com/>

電話：0123-57-7463



## 関連企画

### 時のあわい 旧北炭清水沢火力発電所をめぐる シンポジウム&ワークショップ

5月25日(日) 14:00～16:30

会場 | 夕張市拠点複合施設りすた 多目的ホール

#### 第1部：私と他者のあわい

旧発電所でアートをすることについて、このプロジェクトに関わる3人が語ります。

丸山純子(美術家)

大友恵理(キュレーター)

佐藤真奈美(清水沢プロジェクト)

#### 第2部：過去と未来のあわい

旧発電所の物語を発電所で働いていた伊藤さんにうかがい、炭鉱遺産としての未来について考えます。

伊藤保則(元北炭電力所勤務)

山口一樹(夕張市教育委員会学芸員／社会教育主事)

佐藤真奈美(清水沢プロジェクト)

#### 第3部：花づくりのワークショップ(15時30分～)

好きな色のビニール袋(レジ袋などの空き袋)と空きビンをご持参ください。

あなたが作ったお花が会場に展示されます！

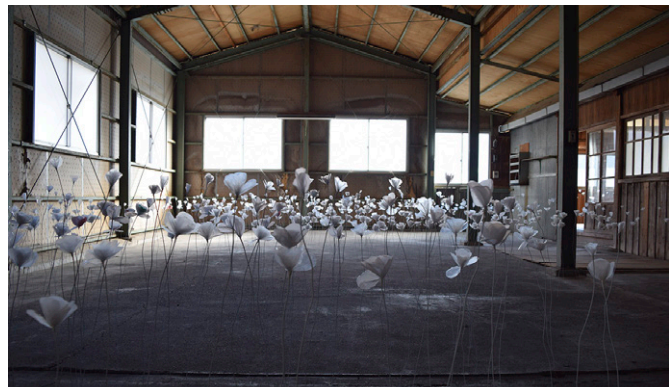
本事業は、建設から100年の節目を来年に控える旧北炭清水沢火力発電所において、美術家丸山純子を迎え、空知産炭地域の歴史を振り返り、この地の現在と未来を展望するものです。

丸山は2年前に初めて現地を視察し、旧火力発電所に“止まってしまった心臓”のような印象を受けました。以来、彼女はこの場所に強い関心と制作意欲を持ち、2025年冬、再び夕張を訪れました。

炭鉱住宅街の滞在経験や住民へのインタビューなどの滞在制作を経て、現在と過去、私と他者、こことあそこ… 何かと何かの間に、生じる空想というもうひとつの世界づくりを旧北炭清水沢火力発電所で試みます。

#### 参加作家／丸山純子

ニューヨーク市立大学ハンターカレッジで彫刻を専攻、卒業。人と自然、記憶、再生などをキーワードに、廃材や、身の回りの物事を素材にして、生命感帯びる風景を再構成している。2004年Free Art Free 準グランプリ受賞、2007年公益信託大木記念美術家助成基金授与、2009年台北市・横浜市アーティスト交流プログラム審査員特別賞受賞、2021年文化庁新進芸術家海外研修制度にて渡独。2023年Pollock-Krasner Foundation 授与。



無人駅の芸術祭2023展示風景 撮影：中川達彦

#### 旧北炭清水沢火力発電所について

1926年に完成した北海道炭礦汽船(北炭)の自家発電所。1950年代前半には出力74,500kW、送電線網は南北100km以上にも及び、わが国有数の規模を誇った。1992年の廃止後は、産業廃棄物中間処理業の東亜建材工業が建物の解体を行いつつリサイクル工場として操業しているが、2011年に開催された現代アート展を契機に解体が一時中断された。以降、管理企業の理解を得て、1対1で炭鉱遺産の意義を考える対話の場「清水沢アートパワープラント」として、見学事業が行われている。



1972年(昭和47年)5月。「こころの風景」発電所構内のブロック工場の「コブシ」が綺麗な白い花。撮影：伊藤保則